

アルファベットの歴史

今、世界で広く使はれてゐるローマ・アルファベットは、凡そ2千年前、大ローマ帝国がその国語であるラテン語を表すための文字として制定したものであります。その故に、ラテン文字ともまたはローマ字とも呼ばれてゐます。

然しながら、ラテン・アルファベットの大部分は、既存のギリシャ・アルファベットから借りたものであります。ギリシャ文字は24字でした。その中には、ラテン語には不必要な文字がありましたのでこれを捨て、足りないものもありましたので新たに作り、それで現在の26字になったものです。

そのギリシャ・アルファベットも、ギリシャ語を表すためにギリシャ人が自ら創作したものではありませんでした。既に存在してゐたフェニキヤ文字から借りたものであります。フェニキヤ・アルファベットは22字でした。その中にはギリシャ語には不必要な文字が3字ありましたのでこれを削りました。然し、必要な文字が5字無かったので新たに作って加へましたので、差引き24字になったものであります。

また、フェニキヤ文字も、フェニキヤ語を表すためにフェニキヤ人が創作したものではありません。アッカド人が創作したアルファベットから、フェニキヤ語を表すのに必要な文字を取捨選択して借り入れたもの

なのです。

さてここで注目すべき事があります。それは、フェニキヤ文字でもギリシャ文字でもラテン文字でも、よその文字を借り入れるに当っては、それぞれに必要な文字だけを借り、不必要な文字は捨て、足りない場合には新たに作って加へてゐる、といふ事であります。

これに対して、イギリスでもフランスでもドイツでも、ローマ帝国が制定したラテン・アルファベットをそのままそっくり借り入れてゐる、といふ点に注目したいと思ひます。英語やフランス語を表記するのに、ラテン文字には不必要な文字もあれば足りない文字もあるのに、削ることもせず、新しく作ることもせず、そのままそっくり借りたといふことであります。

ですから、英語でもフランス語でもドイツ語でも、初めからラテン・アルファベットではそれぞれの言語を正しく表現できなかったのであります。“表音文字”とは言ひながら、その表音が正確に出来ないのが、今のラテン・アルファベットなのであります。

重ねて言ひますか、ラテン・アルファベットは、今から2千年前、ローマ帝国がラテン語を表すものとして制定したものであります。その時点においてはそれは完璧な表音文字だったと言って良いでせう。然し、現在においては“表音文字”として最低のものと言はざるを得ないのであります。